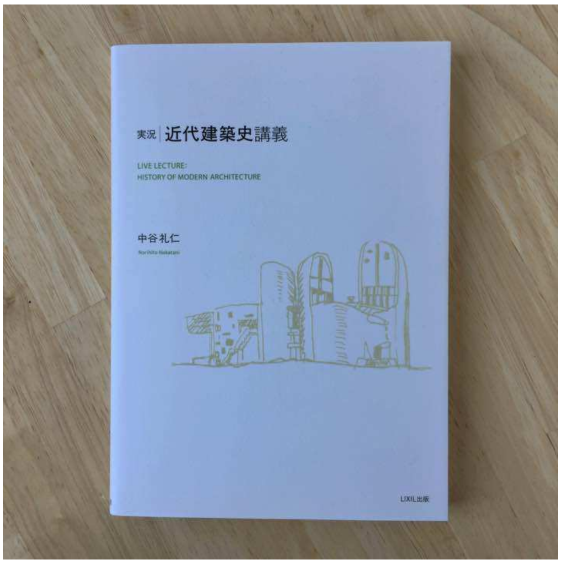
その本はそこに　読書案内 25　～建築の星座のライブ～

実況　近代建築史講義　中谷礼仁（なかたに　のりひと）　2017.10.15　LIXIL 出版



この本は、ルネサンス～現代までの建築史の本ですが、流れるような通史ではなく、各時代のピーク（極北）を表すような建造物とその背景を丁寧に説明しています。歴史とは「少なくとも２つ以上の事象の間に発生する、想像的な時空のこと」です、と中谷氏は言います。分かりにくい感じがしますが、各極点を知って大枠が見えることが大切で、その極点やその間の無数の出来事（点・建造物）に興味が生まれたものを自分で調べるというやり方です。実際に読んでいくと、通史より頭に入りやすくて、しかも極点が丁寧に解説してあって興味が沸きやすいと思いました。もっと知りたいという意欲を沸かせてくれる本でした。この講義自体のテキストは、
①「西洋建築史図集」
②磯崎新・篠山紀信の「建築行脚」シリーズ全 12 巻

❖❖❖西洋近代❖❖

第１回　ルネサンス・・・建築の自然発生的成長が終わり、様式として把握されはじめた。取捨選択が可能。これは私たちと建築との間により疎遠さが加わった。近代の建築表現の前提となる特徴はこの疎遠さ、と中谷氏は言います。そして建築は人為的なモード（流行）になりました。様式は繰りかえされ、時間は宙づりにされます。

第２回　倦怠・・・アンチルネサンスとしてのマニエリスム、バロック様式、ケプラーの法則（楕円）。

第３回　ロココ趣味・新古典主義・・・第２ルネサンス、啓蒙思想、ルドゥー、ブーレー、シンケル。

第４回　折衷とピクチャレスク、そして廃墟

第５回　産業革命と万博・・・労働者の誕生、鉄と鉄筋コンクリート。1851 年第 1 回ロンドン万博のクリスタルパレスは 560m×125m、高さ 40m（工期 9 ヶ月！）温室専門の設計者が設計しました。1889 年第 4 回パリ万博のエッフェル塔はエッフェル専用の実験室が塔の一番高い位置にあり、半分にはピアノとテーブルが置かれた居間とキッチンが。

❖❖❖モダニズムの「極北」❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

第６回　ミース・・・フリードリヒ街のオフィスビル案、バルセロナパビリオン、マレーヴィチの＜白の上の白＞

第７回　ロース（ラウムプラン）、コルビュジェ（ソビエトパレス、ドミノシステム、キュビズム、ユニテ、ロンシャンの礼拝堂、ラトゥーレット修道院）◂　やっぱりコルビュジェは多いです…。

第８回　未来派、ロシア構成主義、フラーなど。

❖❖❖近代+日本+建築❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

第９回　白いくりがた（様式・擬洋風）・・・築地ホテル館
①　なまこ壁　②塔　③ベランダ、はどこからきたのか。

第 10 回　空白のメダイヨン（明治建築）…コンドル、辰野金吾
妻木頼黄、片山東熊、国会議事堂、シュペーア、長野宇平治など。

第 11 回　平和の発明（丹下健三）…広島平和記念公園、東京 1960
東京カテドラル、日本大阪万博、山田守、堀口捨己、坂倉準三

第 12 回　1970 以降・・・建築家なしの建築、毛綱モン太、
鈴木恂、藤井博己、安藤忠雄、川合健二、石山修武、吉阪隆正
象設計、山本理顕、坂本一成、伊東豊雄、三分一博志、藤森照信。

自由貸出可（黒野）　G・グプラー時のかたち（中谷礼仁翻訳本）▸